

## アメリカ留学体験記『サンディエゴで過ごしたの9ヶ月間』

2004年3月経済学部卒業 Tsuji Ayano

### 1. はじめに

大学生生活3年目の冬、就職活動を目前に控えていた私は、アメリカへの留学を決意しました。

留学先は、アメリカ合衆国にあるカリフォルニア州のサンディエゴという街。裕福な人が多く暮らすラ・ホヤビーチ、広大で開放的なコロラドビーチなど豊富なビーチや港に恵まれ、またメキシコのティファナまでは市街から電車で20分程、ハリウッドのチャイナタウンやユニバーサルスタジオなどが有名なロサンゼルスまでは車で2時間足らずと大きな街にもアクセスしやすい場所です。観光スポットやアミューズメントが豊富、人も温かく明るさにあふれ、治安もよく、また湿気の少ないカラッとした過ごしやすい気候と、快適な生活環境と豊富な娯楽を併せもったところです。

以前から長期間のアメリカ留学を希望していた私は、両親の支援を受けて、学生時代に、このサンディエゴという美しい街で海外での貴重な時間を過ごすことができました。

長期とは言っても、2002年3月末から春・夏・秋の3学期間（約9ヶ月間）と1年足らずで、じっくり時間をかけて勉強したいと考えている人にとっては短い期間かもしれません。ただ、将来のライフワークを定めきれず、将来の職業や学びたいことに関しても多分野に興味散漫していた私にとっては適度な期間であり、限られた時間の中では有意義に、かつ充実した9ヶ月間を過ごしたと振り返って感じます。

そうはいいながらも、実際のところは、いざ帰国するとなった時には「もっと滞在したい！」と強く感じていたし、日本に帰国してからもずっと、アメリカでの生活の機会があれば再び行きたいと強く思うほど、留学への思い入れは強く、今もある部分は鮮明に思い出せるほど印象に残っています。

さて今回、この学生時代に過ごしたアメリカでの貴重な9ヶ月間を記録し、私が感じたアメリカ独特の日常生活や、留学中に学んだこと、留学の目的を果たすために努力したことなど、出会った人や経験したことを交えて感じたままに綴ってみたいと思います。

### 2. カリフォルニア大学サンディエゴ校（UCSD）

私が在籍したのは、カリフォルニア大学サンディエゴ校（University of California San Diego：通称UCSD）のエクステンションセンター（大学付属の語学学校）です。キャンパスは広く大学内は自転車やバスで移動する生徒がほとんどで、建物や敷地の大きさ、体育施設の充実やテラスの数、学生も多数で多国籍であることなど、全ての規模の大きさに早くもアメリカの国柄、広大さを感じました。数多くのノーベル賞受賞者を生み出している大学としてカリフォルニア州の中でも名高く、そうきくと目標意識の高い学生がキャンパスにはあふれているように感じたものです。

大学の中央に建つガラス張り9階建ての図書館は、UCSDのシンボルの1つです。放課後には

課題に取り組む学生で一杯でした。私も、午後の授業の後や、休日に、静かで広い大学の図書館で TOEFL の勉強や、課題をする時間が好きで、よく図書館に通いました。

同じ語学学校に通う、学生たちも、目標意識が高く何かしら学びとりたいという意識が伝わってきました。エクステンションに通う学生の 7 割は日本人と韓国人で占められ、韓国からの留学生がもっとも多いです。予想以上に日本人が多いことに最初は愕然としましたが、みんなの約束事として日本人間でかたまりすぎることや日本語で話すことは控え、他国の友人を増やすことを心がけるように過ごしていました。せっかく日本を離れアメリカまで来たのだから語学力をつけたいという意識はみんな同じだったからか、仲よくなった日本人の友達とも日常会話は英語で交わすことにいつのまにか違和感なく慣れていきました。

### 3. 留学の目的

留学の目的は、主に、現地での生きた語学（実践で使える英語力）の修練やアメリカ文化の体感。加えて、日本の大学で受講しているような専門科目（単位）を 1 つでも習得してきたいという目標をすえて臨みました。大学を休学しての長期留学だったため、語学の習得に留まらず、中身のある専門授業を受けてきたいと考えていたからです。

具体的には、最初は語学中心に勉強し、TOEFL 550 点以上の取得で受講できる Certificate Program（各ビジネスの専門分野に特化した職業訓練プログラム）に挑戦することが留学期間中の最終的な目標となりました。

### 4. 授業の内容

では、UCSD で過ごした 9 ヶ月間に私が学んできたこと、また目標である Certificate Program を受講することができた過程などについて記憶をたどりながら振り返ってみたいと思います。

4 月から 6 月の Spring Quarter（春学期）、7 月から 8 月の Summer Quarter、9 月から 12 月の Autumn Quarter（秋学期）の 3 学期間を過ごしました。最初の Spring Quarter（春）は Academic English Course（TOEFL など語学の文法や語彙力、日常会話などを中心とした授業）を受講、次の Summer Quarter（夏）は前半が春に引き続き Academic English Course、後半は Business Course（ビジネス英会話やアメリカの企業訪問、プレゼンテーションをする授業）、そして 9 月からの Autumn Quarter（秋）は目標としていた Certificate Program（職業訓練プログラム）の Global Hospitality Management（接客・観光産業のマネジメント）を受講しました。

#### （1）Spring Quarter（春学期：4 月から 6 月、7 月）

4 月から 8 月は語学のスキルアップを目的として Academic English Course の授業を受講しました。このコースは、将来、アメリカの大学受験を目的としている学生を中心に、社会問題や分化、アメリカの日常生活などをテーマとして語学能力の向上をはかっています。

私は、留学する前までに、本来必要としていた TOEFL スコアの 550 点以上を取得することができなかったため、留学してからの最初の数ヶ月間はコミュニケーションスキルを学びながら、

TOEFLスコアを延ばすことに努めることとなったのです。

このTOEFL550点は、先にも述べた留学の目的の1つである Business Certificate Course の受講に必要なスコアでもあったので、取得するまではなかなか落ち着かず不安になることもありました。結果として私は、この目標を達成することができたのですが、TOEFL取得の過程については後ほど述べたいと思います。

TOEFLやTOEICのポイントを的確におさえた短期集中の講義も盛り込まれ、語学のスキル面だけにとらわれず、アメリカの時事問題や日常生活の中にある、生きた英会話を学びながらの授業はとても興味深く充実していました。

日本で学生生活を送っているときよりも、英語に的をしぼってじっくり勉強することができ、時間を重ね、会話を重ねる毎に、自分自身の英語力があがってきているのを感じた瞬間はなんとも心地よく、勉強できることを楽しむこともできました。

## (2) Summer Quarter (夏学期：8月)

特に8月の Business Course は、私にとってとても有意義でした。

サンディエゴの企業や工場（例えば、ソニーやラルフス：スーパーマーケット、ワールドトレードセンターなど）の見学や、コーヒーショップの経営で成功しているオーナーの講義から経営のノウハウをケーススタディとして学んだり。実際に自分が経営者になったと仮定してのグループワークは、アメリカ、日本、韓国、イタリア、スウェーデン、トルコなど、各留学生や社会人で参加している人も授業に参加していて各国柄が表れた多様な意見交換がなされ、学生の私にとってはとても刺激的で勉強になる時間でした。企業経営という1つの切り口から、アメリカだけではなく授業に参加している生徒がみなそれぞれの性質をもっており、企業で働く姿勢やモノの考え方は1つではなく、国柄や環境によって様々であることを知識としてではなく、実感としてはじめて知らされた気がしました。

他、授業の内容としては、アメリカのビジネス雑誌から自分が興味をもった記事を選択しレジュメを作成したりプレゼンをしたりと、アメリカ的な課題だと感じたのは、ワークブックをこなすだけではなく、考えて、要点をまとめて私見をまじえて発言するという、自分の考えや意見を求められる内容のものが多くことです。毎日、授業の後で、レポートやプレゼンの課題を準備するのにかなりの時間がとられたのは日本の大学と大きく異なり、必然的に授業後の勉強時間が増えました。

短期間のビジネスコースでしたが、参加している生徒の語学力もぐっと上がり、授業の内容も現地の企業訪問や実際の事業家の話をきくチャンスがたくさん得ることができたので、ようやく、留学した意味を感じられるようになってきました。

## (3) Autumn Quarter (秋学期：9月～12月)

留学最後の学期に、私は「語学中心の授業だけでこの9ヶ月間を終わらせたくない!」と強く感じ、TOEFL550点の取得が条件で受講できる Business Certificate Course (職業訓練プログラム)に挑戦しました。

このプログラムは、アメリカのビジネスマーケットにおける実践的な企業経営ノウハウを学べるも

ので、もちろん私のような大学生も受講対象とされていますが、主に社会人を対象とした構成になっており、一般のアメリカのビジネスマンやUCSDの大学生が多く受講するコースです。

先にもお話したように、私の滞在していたサンディエゴは数多くの美しいビーチやアミューズメント施設が豊富で、観光産業の盛んな都市です。そこでサンディエゴならではの強みともいえる観光・接客業に関する授業を受けたいと思い「Global Hospitality Management」を選択し、観光・接客業界の経営ノウハウを学ぶことで、その都市の特徴を活かしながら経営で成功していくために必要不可欠な条件や「経営とは？」といったビジネスの基礎知識の習得に努めました。

社会人経験がないうえに、毎日課される定量のレポート（課題）や分厚いテキストの予習に、最初はついていけるかどうか不安でしたが、現地のホテルや観光施設などの訪問は楽しく、複数の経営者からいろんな話をきける時間はとても楽しかったです。

具体的な訪問先として、ハイヤットホテル、トレパインホテル、シーワールド（大型水族館と動物園の施設）やコンベンションセンターなど、その各施設で経営戦略としてどのような接客がおこなわれ、リピーターを増やすために何を工夫しているのかを実際に目で見て話を聞いて学ぶことができるのです。

#### <授業の内容>

- ・ 経営の基礎知識、戦略、マーケティング、ファシリティ
- ・ 商品開発の思考、広告、テクノロジーの活用、経理
- ・ リーダーシップ、従業員のモチベーションアップ、話術のテクニック など

12月、Certificate（修了証）取得に必要な課題とプレゼンを終え、無事に終了証を得ることができました。この最後の3ヶ月が最も課題や予習が大変でしたが、1つのことを成し遂げた充実感を得られた3ヶ月でした。

語学と、ビジネスのはしりを学んだに過ぎないのかもしれませんが、今後の自分が将来どうなりたいのか？どんな仕事を、どんなことを考えながらしていくのか？またそれには何が必要なのかを意識して物事にとりくむきっかけを得られたように思います。

#### 4. TOEFLの取得

私は無事にCertificate Programを修了することができたのですが、この授業を通じても高い英語力を求められたのはさることながら、このプログラム自体に参加する入口の段階で取得していなければならないTOEFL「550点以上」という1つの壁を留学する前までになかなか越えられずに苦労しました。9ヶ月間の留学期間の中でこのスコアを取得することこそ、最もプレッシャーを感じ苦労したと言っても過言ではありません。

留学前、日本にいるときに初めてTOEFLを受けたときは500点にも満たず、480点～490点の間をいったりきたり、最初は500点の壁さえも越えられずにいました。550点とってから留学しよう当初は考えたこともありましたが、それではいつまでたっても行けないばかりかチャンスを逃してしまうと思い、アメリカ留学の時期を決め、現地で期限を決めて550点までス

コアをのばす決意をしました。

アメリカに来て「9月までにTOEFL 550点を取得できなければ、Certificate Programは受講できない。」という期限付きの目標を達成するため、4月から8月は放課後、クラスの課題を早くに終えて、毎日のようにUCSDの大学図書館でTOEFLの勉強をしていました。

TOEFLは日々の積み重ねと、テストの傾向やポイントをつかむことで文法や長文は徐々にスコアを伸ばすことができました。中でも一番スコアが伸び悩んでいたのはリスニングです。こればかりは耳を慣らしていくしかなく、意識してラジオやテレビで耳をならしたり、ホストファミリーやクラスの友人と会話の機会を積極的にもつようにしたり、大学のバレー部（クラブ）に入部し、現地の大学生と一緒にプレーし接点をもつなど普段の生活の中でも英語でのコミュニケーションの機会を少しでも増やすようにしてきました。

最後のチャンスである9月のTOEFL試験が近づくとつれ、プレッシャーに負けそうになることもありましたが、自分が何を目的として留学したのか、またせっかく海外留学のチャンスを得られたことを胸に刻み、できる限りの挑戦と努力はしようと何度も決意を新たに勉強に努めました。

少しずつの心がけと、日々の積み重ねの結果、期限ぎりぎりでしたが9月のTOEFL試験でようやく560点のスコアを取得することができました。

目標スコアを取得できてほっとしたのはつかの間で、Certificate Programの授業は内容も英語力も更なる勉強が必要で、1つの目標をクリアしたらまた新たな目標がでてきて・・・、という風に授業の課題やプレゼン、自分の意見を英語で表現することの難しさにぶつかりながらも向上心をもって取り組めた充実した3ヶ月間をすごすことができました。

またコミュニケーションの機会を増やすため、体を動かすために入部したバレーボール部もUCSDの学生と純粋にバレーを楽しむことができ、最初は円滑にできなかったコミュニケーションもバレーを通じて多くの学生が話せるようになり、スポーツは世界共通であることと、それを通じて接点をもてる喜びを感じることもできました。

## 5. アメリカでの生活

さて、ここまでは勉強のことばかりを話してきましたが学校以外のアメリカでの生活についてお話ししたいと思います。

アメリカ留学の目的の1つに、アメリカ人のライフスタイルを知り、異文化を知りコミュニケーションを充実させるということもありました。

アメリカ生活の9ヶ月間は最初から最後まで、ロバート（ご主人）とジェーン（奥様）の老夫婦と、黒犬のシャドーとの住む家でホームステイをしていました。私以外にも留学生が暮らすことになっていて（ホームシェア）、韓国からの留学生のジョエンは4月から7月まで、8月からはタイからの留学生ビーと一緒に生活していました。なぜか、韓国、タイ、中国からの留学生は名前の発音がアメリカ人になかなか馴染み固い（発音が難しい）ことから、サブネームのようにジョエンやビー、ケイトやロイといったアメリカネームをもっています。最初は変な感じがしていたけれど、学

校の先生やホストの二人もそのほうが呼びやすく授業もスムーズにしていることや、また日常会話の中でもそのアメリカネームで親しみをもって呼びあっているうちに違和感なく私も韓国の友人をアメリカ流のニックネームで呼んでいました。

ホストのロバートとジェーンとは、毎朝・毎晩の食事をともにし、かつて海軍のコックだったロバートの料理はおいしくて、その他生活のことも細かな気配りがきいていて過ごしやすい環境でホストには恵まれました。

ロバートはアジアからの留学生が好きらしく、夕食に日本食のお味噌汁やご飯を用意してくれることも多く、幸い私は食事面でホームシックになることはなかったのです。7月の私の誕生日にはかわいいペンダントをプレゼントしてくれ、ジェーンの誕生日には街のちょっとしたレストランに行くなど、家族を大切にし、海外からの留学生を大切にしてくれるロバートの心遣いには感謝しています。ロバートに「なぜ、アジア人の留学生を好むのか？」と聞いた事があります。「アジアからの留学生はみんな優しくよい子が多い。」という一言が返ってきました。老夫婦の二人にとって留学生がやさしく穏やかであることが望みであり、また私たちアジアからの留学生を「優しい」と感じていることが嬉しかったです。

穏やかなロバートとジェーンとは対照的に、最初にホームシェアをしていた韓国の留学生ジョエンのわがままさにはしょっちゅう頭を悩まされていました。けんかをしたこともあります。もちろんジョエンとのコミュニケーションは英語で、今思うと、普段は英語を話すのに緊張しているのに、けんかしたときは何とも流暢に感情をあらわにできていたような気がします。けんかの原因は、ジョエンの長電話（電話回線を共有しているので一人が使用しているともう一人は使用できない）やホストに対する不平不満、部屋が狭いから交換してほしいとか・・・、理由はささいなことばかりでしたが、何だか振り回された印象が強く「韓国人には selfish（わがまま）な人が多い」という印象が留学中にインプットされてしまいました。日本人にもいろいろな人がいるように、韓国人だからということではないのですが、たまたま一緒になったジョエンからの印象です。そうじゃない韓国人ももちろんたくさんいましたが、わがままになることは生活習慣・文化の違いからくることで、韓国人の生活や意識もその国独得のものがあるのだと感じる瞬間が多く、他国の留学生とホームシェアするとアメリカ以外の国の生活習慣を知ることができるので、それも勉強になりました。

2人目にホームシェアしたタイからの留学生ビーは、控えめでおとなしい性格だったけれども、私よりもお姉さんで、話しやすく勉強熱心のしっかり者。学校が休みのときには、一緒にラスベガスやグランドキャニオンに旅行に出かけたりするほど仲良く生活していました。

同じく日本から留学している他の友人はホームステイしている人もいれば、ダウントウン（サンディエゴの中心街）でアパートを借りている人もいました。特に仲良くなったキョウコやヨウコとは休みになるとサンディエゴやロサンゼルス観光地を訪れたり、キョウコのホストファミリーとダンスの練習にでかけたりしていました。

サンディエゴに留学している日本人はたくさんいて、夫婦で仕事をしながら学校に通っている人や、仕事をやめてキャリアをかえるため、目標に向かって勉強しに来ている人、私のように就職す

る前の大学生など目的は様々。でも、みんな何かしらの目標や夢、強い意思や向上心をもっていて、そんな人たちからいろんな話を聞くことで私自身の視野が広がり刺激をうけることも多かったです。

もちろん、日本人の友人とばかり一緒に過ごしていたわけではなく、韓国からの留学生ケイトとは本当に仲良くなり、夏休みには10日間、2人でニューヨークやワシントン、ボストンに旅行に出かけました。ケイトとは4月からの最初の授業のクラスメイトで年齢も近く、いつの間にか仲良くなり、ケイトの友人ロイト、私の友人こばの4人でサンディエゴパドレスの野球観戦にいたりしていました。対戦相手がサンフランシスコジャイアンツのときは新庄選手のホームランに一喜一憂し、相手がシアトルマリナーズのときにはイチロー選手や佐々木投手に感激するなど、アメリカメジャーリーグ観戦をたのしむきっかけをくれたのもケイトでした。ケイトもスポーツが好きで、韓国の有名選手もメジャーに来ていることから、野球観戦が2人の楽しみの1つにもなっていました。

ケイトと旅行した10日間、ニューヨークでは自由の女神やエンパイアステイトビル観光、ブロードウェイで観劇、ワシントンでは国会や美術館めぐり。ボストンでは望月教授とご家族と一緒にハーバード大学などボストン観光をして過ごすことができ、ケイトも私もボストンで教授に出会えたことやハーバード大学の中を散策する経験ができたことに感激しました。

この10日間は、こういった観光地をめぐった満足感だけではなく、ケイトと2人で過ごしながらお互いの将来（就職活動や就きたい仕事）のことや、人との出会いやプライベートにいたるまでじっくりと向き合って話すきっかけにもなり、この旅行を通じて、国や文化、言葉や育ってきた環境が違っていてもお互いの気持ちや考えていることは伝わるし、韓国に戻ってからの夢をもっているケイトからは刺激と元気をもらうことができました。

## 6. 最後に

アメリカでの9ヶ月間を通じて、私が得たもの。

アメリカでの生活、語学力、Certificate、友人、異文化交流、旅行、思い出・・・たくさんのごとを得て、学ぶことができました。

特に、留学の目的を振り返ってみると「目標に向かって、日々、意識して取り組めば目標は達成される。」ことを知らされた留学でもありました。自分の将来を前向きに考えるきっかけとなったのです。

アメリカでの生活、国をまたいでたくさんの人との出会い、目標への挑戦などを経て、留学生活は学生から社会人に向かう私に、将来への希望や興味、夢や目標を持つことの大切さを教えてくれました。最初は不安もありましたが、帰国してからは心から留学してよかったと思うばかりです。今後も海外への興味を持ちつづけて、この留学で学んだ気持ちを大切にしていきたいと思っています。

以上